

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572100859		
法人名	有限会社ほほえみの里		
事業所名	グループホームほほえみの里	ユニット名	牧水館
所在地	日向市東郷町山陰甲697-5		
自己評価作成日	平成24年11月2日	評価結果市町村受理日	平成25年1月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/45/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosvoCd=4572100859-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成24年12月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

場所的に日向市内から少々遠いが、山の中にある為、季節に応じた茶摘みやみかん狩りなどの楽しみを、地域の方々からのお誘いを受け楽しんでいる。また、施設のイベントには、地域の皆さんを招待し、一緒に楽しみ、皆さんも行事を楽しみにされており、季節の野菜等の差し入れも沢山頂戴する他、介護の相談を受けたり、地域との密な交流を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム開始から、順調に地域密着型サービスの意義を踏まえて運営がなされている。地域に受け入れられ、利用者に喜んでもらおうと、果物や野菜の収穫体験や地域の行事に誘われ、参加している。ホームも災害時の避難所として、地域に役立ちたい意向を伝えているほか、ホームの行事には、多くの地域の参加がある。また、専門職の働いている所として認識もされている。眼科疾患の術後に、洗髪に不安があるからとホームを頼り、洗髪を実施し、喜ばれた事例もあった。遠方にもかかわらず、ホームを訪れ、談笑する高齢者も増えており、この地域において、高齢者がホームだけでなく、自宅であっても安心して生活できる拠点として認識されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	①牧水館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に掲示し、常に目にして理念の理解をし、自分のものとして日々の勤務に対することが出来るように努めている。	介護と地域密着型サービスを理念の柱とし、管理者と職員は、ミーティングで確認および共有しながら、理想とするホームづくりに取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ほとんどの行事に、利用者のご家族とともに地域の皆さんにも案内し、参加して頂くようにしている。	運営者は、地域住民として、地域活動に積極的に参加している。地域の住民や利用者は、地域の行事やホームの行事に双方向的に参加し、顔なじみとなり、ホームを訪れ談笑するなど、日常的に交流が行われている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣のお年寄りの病後や認知症に対する質問など、訪問された時に相談を受け、必要と思われる支援を行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回のペースで開催し、貴重なご意見も頂き、質問も受け、回答を行い、ご意見を参考にしながらサービスに活かされている。	委員は行政、地域、利用者および家族からなり、幅広く意見が出されている。ホームの機能や24時間体制に着目し、AED(自動体外式除細動器)を公民館でなく、ホームに設置をとの要望については、行政と検討中である。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者には、運営推進会議の構成員になって頂き、その都度、取り組みを伝え、また、ご意見や指導を仰ぐようにし、協力関係が築けている。	市担当課および地域包括支援センターとは、運営推進会議以外でも、連絡や情報の共有、相談や助言など、協力や連携が図られている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないのが当たり前の事として、職員にも徹底しており、玄関の施錠については、帰宅願望による暴力的不穏時等に、安全の為、やむを得ず行う事がある。利用者が自ら施錠している事があるが、さりげなく開錠している。	職員は、拘束について理解し、拘束を行わないためにはどうすればいいかを考え、実践している。調査時も、頻繁に出て行こうとする利用者に対し、職員間でミニカンファレンスを行い、見守りや寄り添いにより対応を取っていた。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を積極的に受け、職員に報告伝達してもらい、虐待の内容の理解を深め、外出や外泊の後も、入浴や更衣を利用し、身体のチェックを行うようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	①牧水館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会を作り、学び、伝達してもらうようにしている。必要性のある個別の利用者やご家族にも、制度の説明や必要性を伝えている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や改定時には、納得されるよう説明がなされている。また、必ず疑問、質問をお聞きしている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会議のことを伝え、議案や意見を聞くようにしており、会議後には内容を知る事ができるようになっている。		来訪時やケアプラン作成、説明のほか、毎月の請求書発送に併せて、利用者の状況、ホーム行事や検討したいテーマ、施設長の思いなどを記載した「ほほえみ便り」を発行して、家族の思いを更に引き出す工夫をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの中で、意見や提案を聞き、反映させるよう努めている。		ミーティングでは、カンファレンス、業務、その他の項目を常に話し合い、全職員で結果を共有し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力に報いたいと努力している。職場環境、条件の整備にも努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の各力量を把握し、レベルアップや技術の習得を目指すための研修を受ける機会を確保し、働きながらトレーニングしていく事を職員に勧めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会に参加してもらったり、参加させてもらう等、サービスの質の向上を目指している。相互訪問の機会も持っている。			

自己	外部	項目	自己評価	①牧水館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	よく話を聞くことで、不安や要望を知る事が出来、話を聞いてもらえることで安心感を持ってもらえている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の前に十分家族の話を伺うことで、不安や要望を知り、家族関係のあり方にも気付かされ、また、十分に話せる安心感を持って頂くことで、その後の関係作りもスムーズにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が求める支援と、真に必要な支援を見極め、本当に必要なその人らしい支援につなぐよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活する上で、家事や作業をする中において、必要な知恵や伝統を教えられたり、支えられたり、互いの良いところを出し合っている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	身内を預けているという遠慮や引け目をしっかり受け止め、より良い家族関係や関係の再構築が出来るよう、利用者サイドに偏らず、ご家族の悲しみ、苦しみも共に受け止めるように努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の面会、友人・知人の面会や行きつけの理・美容院に行くなど、なじみの関係や場所との関係が途切れないよう働きかけている。	利用者の会いたい人や行きたい所を、本人や家族から引き出し、実現に向け、家族の協力も依頼している。利用者が、家族や知人に出す年賀状の作成時は、手指の障害で文字が書けなくても、手添えをし、関係が途切れないよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲間作りを意識し、孤立する事のないようにしており、職員もまたその仲間の一人である。			

自己	外部	項目	自己評価	①牧水館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなった後の線香立てや初盆参りは欠かさず行っており、その後のご家族のお気持ちのフォローもしている。退居された後も、自宅や他施設、病院などに出向いている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前や入所時に、ご本人やご家族の希望や意向をしっかりお聞きして、それらに添えるよう努めており、困難な場合でも、出来る限り本人主体で考えている。また、職員の気付きも大切にしている。		本人や家族との面接によるアセスメントやADL(日常生活動作)チェックリストに重点を置き、昔の好みや生活習慣を把握するよう努めているが、日常のかかわりを通して、更に利用者の意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	なかなか生活歴や暮らし方をご家族からしっかり聞き出す事は、それまでに関わりの薄かったご家族が多く、苦慮するところだが、それでもしっかりご本人に関わっていく事の継続の中から、汲み取っていくよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所後に、過ごし方その他をしっかりと観察し、交流を通して現状の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チームで話し合い、プランを作成し、作成後も確認検討し、意見を出し合い、より良い介護計画の作成に努めている。担当者を決め、3ヶ月ごとに評価を出し、検討材料として活かされている。		家族の意向や職員の意見、介護記録などを介護計画の作成に反映させている。計画を家族に説明し、目標達成に向けて3か月ごとに評価を出している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で情報を共有し、実践しながら、問題提起や見直しに活かしている。また、記録の方法の研修等に、職員が積極的に参加できる機会を作り、報告伝達する事で、知識の向上を目指している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診は、原則的にはご家族にお願いするが、困難な場合には職員が対応している。日課に縛られず、個人主体で、出来る限り柔軟な対応をしている。ゆっくり話がしたい方もあれば、体を動かしたい方もいて当然と考える。			

自己	外部	項目	自己評価	①牧水館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中に溶け込み、農作業の手伝いに行ったり、季節の野菜を頂いたり、暮らしを楽しむ事が出来ている。地域の方にもイベントへの参加を呼びかけ、楽しんでいただいている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一応協力病院があり、居宅療養管理指導なども受けているが、ご本人、ご家族の希望があれば、適切な医療を受ける支援がなされている。希望のかかりつけ医を無理に変えていただく必要は無いことも、きちんと伝えてある。	協力医の毎月の訪問診療や家族の同行で他医療機関を受診するなど、利用者や家族の希望で選択している。いずれの場合でも、情報提供や結果の確認を記録し、適正な受診支援を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設長を初めとし、他にも3名の看護職員が勤務についており、変化を報告したり、相談にのってもらえることができる。適切な受診や治療を受けることができる。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院の相談室とも連携し、入院の際にはサマリーを提出、退院の際にも事前に病院でのカンファに参加し、情報交換や相談ができるように、これまでの関係で築いてきた。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、終末期に対する施設の取り組みと限界を説明、ご家族の意向も十分に伺い、状態に応じて、早期にご家族や協力医と話し合うようにしている。	協力医の理解は得られているが、夜間の当直医の場合や契約書に課題があるため、4名の看護職職員がいることもあり、対応を継続している。職員は、重度化や終末期をホームで行うことは共通理解している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が受講できるように、訓練や講習を定期的に行い、対応できる姿勢づくりをしている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間や地震を想定し、訓練を実施している。地域の消防団の参加協力も依頼している、	ホームの立地条件では、地震と火災対策が主となり、夜間の地震を想定した避難訓練を実施した。副施設長は地域消防団員でもあり、訓練指導や消防団の協力は得られる。また、ホームを避難所として提供することは、地域に伝えてあり、地域からも期待されている。		

自己	外部	項目	自己評価	①牧水館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の生活や人格が尊重され、プライバシーの守られる空間の確保に努め、言葉かけや態度、表情にも十分気を付ける事を職員間で注意し合っている。		家族的で親しい仲にも、丁寧で誇りを傷つけない言動で接するよう、職員は心掛けている。トイレは、リビングから直視しない所があり、職員は排せつ誘導が散漫にならない介助に努めている。職員同士の気づきは、その場で確認しあい、意識を高めるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ソースやドレッシングなどを決めるような些細なことでも、自己決定できるように働きかけ、自分の希望が活かされるという満足感、安心感を持てるよう支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分らしく、自分のペースで過ごせるよう、職員の決まりやその日の都合に合わせるのではなく、その人らしい暮らし方を優先している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合ったオシャレをし、出来る部分は、自分で身だしなみを整えられるようにしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の部分への参加はないが、下ごしらえやお餅の丸め、畑に自分で作った野菜を収穫し食べるなど、楽しみの部分での参加がなされている。		各ユニットごとに、利用者の食べたいものを取り入れた献立になっている。野菜の差し入れや買い置きの食材を使用し、利用者も皮むきや団子づくり、漬物など、できるところに参加している。職員も利用者と共に食事を楽しみ、話が弾んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	持病や主治医の指示が無い限りは、普通食で個人の状態に応じた食事量の摂取ができており、水分に関しては、不足しないための工夫を凝らし、ゼリーにしてみたり、スポーツ飲料を取り入れ、脱水予防に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声を掛ければ自分で出来る方は自分で、困難な方は、職員の介助により清潔が保たれている。			

自己	外部	項目	自己評価	①牧水館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツに頼らず、ご家族の経済的負担も考慮し、日中は布パンツで過ごし、時間をみてトイレに誘導する等している。ポータブルトイレが不要になった方もおられ、トイレの動作が下肢筋力を付けるために役立っている方もある。	個々の排せつパターンを把握し、布パンツを着用し、昼夜ともトイレでの排せつを支援している。ポータブルからの自立やトイレの動作で下肢筋力の強化した利用者もいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取と繊維の多い食品をメニューに入れ、便秘対策を行っている。また、適度な運動も取り入れ、排泄パターン表の活用を行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の間隔が開きすぎないように、チェックしながら、好みの声の掛け方や誘導の仕方を工夫し、気分よく入浴できるよう支援しており、時間も午前だ、午後だと固定せず、気持ちよく入浴できるタイミングに合わせている。一人で入浴できる利用者は、好きな時間にいつでも入浴できる。	おおむね隔日の入浴が多い。全員浴槽に入り、ゆっくり入浴できるよう、入浴介助を行っている。入浴が自分でできる利用者は、職員の声掛け程度で、好きな時に入浴している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望時や状況に応じて、ゆっくり休息したり、安心して眠れるよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用を頭に入れ、用法用量を守った服薬支援がなされている。また、状況を見て、用量を抑えることが出来るよう、協力医にきちんと報告している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品、楽しみ事、気分転換の支援をし、役割を持ち、感謝される事で張り合いが持てるよう意識し、共に喜び楽しんでいる。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に、希望に添った外出はなかなか難しいが、ご家族に希望を伝え、協力を頂きながら、出来る限り希望が実現できるよう支援している。地域の方々の受け入れにより、茶摘みやみかん狩り、山菜取り、農作業の手伝い等に参加できている。また、施設周辺の四季折々の野山見学に、レクリエーションの一環として、散歩に出かけている。	職員だけで、利用者一人ひとりの希望に沿った外出支援は難しいが、地域からみかんや根菜類の収穫に誘われたり、近くの山菜取りや花見など、四季折々を楽しみながらの散歩を行って、外出機会を増やしている。本人の意向を家族に伝え、家族に協力を依頼することもある。		

自己	外部	項目	自己評価	①牧水館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭はご家族に説明し、納得の上で施設で管理しているが、希望の品が購入できるよう支援しており、出納帳に記入し、面会の折に確認して頂いている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由にかけてもらえるよう支援している。手紙も遠方の身内の方などには、代筆もするし、書けるだけの文章が表せるよう支援している。写真を同封するなどして、とても喜ばれている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎の飾り付けを工夫し、ご利用者の皆さんと共に作成する事が楽しみにもなっている。あまり幼稚になり過ぎず、且つ簡単にできるようにと、職員もともに楽しんでいる。	食堂兼リビングは、調理する手元が近くに見え、音や匂いが家庭的な安心感を与えている。季節によっては、広いウッドデッキで食事やお茶を楽しんでいる。訪れる地域の方もお茶に誘い、会話を楽しむ場になっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自然に自分の好みの場所が定まり、周りもそれを自然に受け入れている。気の合う者同士、居室を訪問し、会話を楽しまれることもある。そういう事が自由にできるように支援もしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	置いてある物を見て、自分の部屋である事を認識できている方もあり、ご家庭で使っていた寝具やタンスなどを利用されるよう、入所の際に、ご家族にも伝えている。神仏を持参される方もあり、自由にされている。火気の使用はなし。	クローゼット以外は、全て利用者主体で揃えるので、使い慣れ、なじみの深いものを準備するよう家族に伝え、支援している。日々を過ごす中で、レイアウトを変えたり、表札を付けたりにして、落ち着いた部屋づくりを、職員も一緒になって作り上げている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体状況に合わせ、手すりやスロープを設置し、居室、トイレ等に分かりやすく、そして自分で製作した名札等を利用している。文字の読めない方には、動物の絵などで理解して頂けている。			